

# 「老人性喉頭」の治療のため、当院に入院・通院された患者さんの診療情報を用いた医学系研究に対するご協力をお願い

研究責任者	所属 <u>耳鼻咽喉科</u> 職名 <u>教授</u> 氏名 <u>小川 郁</u> 連絡先電話番号 <u>03-5363-3827</u>
実務責任者	所属 <u>耳鼻咽喉科</u> 職名 <u>助教</u> 氏名 <u>甲能 武幸</u> 連絡先電話番号 <u>03-5363-3827</u>

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院された患者さんの診療情報を用いた下記の医学系研究を、医学部倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

## 1 対象となる方

西暦 2014 年 6 月以降に耳鼻咽喉科喉頭専門外来にて老人性喉頭と診断され、治療のため入院・通院し、診療、検査を受けた方

## 2 研究課題名

承認番号 20140103

研究課題名 超高齢化社会日本における老人性喉頭の臨床的背景に関する多面的検討

## 3 研究実施機関

慶應義塾大学病院耳鼻咽喉科喉頭部門

## 4 本研究の意義、目的、方法

高齢者の場合、個人差はありますが加齢に伴い声帯が痩せ細ってしまうことで、声が擦れる、弱々しくなった、長続きしないといった音声に関する障害が生じてくる事があります。また、喉頭の下降や筋力の低下、知覚や反射の減弱に伴い嚥下機能も低下してくるとも言われています。

世界で最も平均寿命が高く超高齢化社会となっている我が国において、声帯萎縮や声帯溝症といった加齢性変化に伴う音声障害を主訴に受診する患者は年々増加している一方で、高齢化社会において社会活動を続ける高齢者の割合も増加しており、音声障害に対する治療的介入が望まれるケースも多いのが現状です。しかしながら、本邦における老人性喉頭の現状を検討しまとめた報告は少

なく、まずはその臨床的背景を把握したうえで、効果的な治療介入方法やその評価方法を検証していくことが重要であると考えられます。

今回我々は声帯を中心とした喉の構造に関して、音声機能や嚥下機能、内視鏡や CT 画像など複数の評価方法を用いて検討していくなかで、超高齢化社会日本における老人性喉頭の特徴を多面的に評価し把握していきます。将来的には、本研究成果から効果的な治療やアンチエイジングにつなげていくことで臨床現場にフィードバックし、きめ細やかで良質な医療を提供することを目的といたします。

## 5 協力をお願いする内容

診療情報に記載された内容(性別、年齢、治療歴、内視鏡画像・音声検査・嚥下機能検査等のデータ)を研究に使用させていただきます。

## 6 本研究の実施期間

西暦 2014 年 7 月 23 日 ~ 2019 年 7 月 31 日

## 7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名および患者番号のみです。その他の個人情報(住所、電話番号など)は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と、匿名化した診療情報を結びつける情報(連結情報)は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また研究計画書に記載された所定の時点で完全に抹消し、破棄します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人(ご本人より本研究に関する委任を受けた方など)より、診療情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実務責任者 甲能武幸

機関名 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科学教室

160-8582 東京都新宿区信濃町 35 電話番号 (03)5363-3827 内線 62441 以上